

記録誌とりまとめ（案）

平成28年熊本地震における災害廃棄物処理の記録
（仮称）

平成○年○月

環境省九州地方環境事務所

○はじめに

| |
|--|
| |
|--|

○記録誌の対象について

| |
|--|
| |
|--|

○知見や教訓のまとめ

熊本地震における災害廃棄物処理を通じて得られた知見や教訓及び振り返りから、「よかったこと」、「課題・反省点」、「関係者への要望事項」として各章・節毎に整理し、最終章に「災害廃棄物処理の成果」を取りまとめた。

○用語の定義

本記録誌で使用されている用語の定義を以下に示す。特にことわりがない限り、本記録誌で使用する語句の意味は次のとおりとする。

| 用語 | 定義 |
|----|----|
| | |

目 次

第1章 平成28年熊本地震の被害状況

- 第1節 地震の概要
- 第2節 被害状況
- 第3節 災害廃棄物の発生量
- 第4節 一般廃棄物処理施設の被害状況

第2章 発災時（発災～1週間）

- 第1節 災害廃棄物処理体制の構築
- 第2節 災害廃棄物処理等に関する連携
- 第3節 災害廃棄物処理等に関する初動対応

第3章 初動対応期（発災後1週間～1ヶ月）

- 第1節 災害廃棄物処理
- 第2節 一次仮置場の運営・管理
- 第3節 一般廃棄物処理施設の復旧対応
- 第4節 災害廃棄物に関する広報
- 第5節 法制度の整備、特例措置等

第4章 応急対応期（発災後1ヶ月～3ヶ月）

- 第1節 応急対応期における災害廃棄物処理
- 第2節 災害廃棄物処理実行計画の策定
- 第3節 家屋解体体制の構築
- 第4節 二次仮置場の整備
- 第5節 災害廃棄物の処理等に関する発注、契約等

第5章 災害廃棄物の本格的な処理期（発災後3ヶ月以降）

- 第1節 災害廃棄物の本格的な処理期における災害廃棄物処理体制
- 第2節 国への災害等廃棄物処理事業の報告及び災害査定
- 第3節 二次仮置場の運営・管理
- 第4節 災害廃棄物処理に関する進捗管理
- 第5節 仮置場の原状回復

第6章 災害廃棄物処理に関する支援

- 第1節 行われた支援の種類
- 第2節 国による支援
- 第3節 災害廃棄物処理支援ネットワーク（D. Waste-Net）による支援
- 第4節 県による支援
- 第5節 市町村による支援
- 第6節 ボランティア等による協力

第7章 災害廃棄物処理の成果

- 第1節 災害廃棄物処理によって得られた教訓
- 第2節 今後の災害廃棄物処理にあたっての提言

資料

- タイムライン
- その他必要な資料

第2章 発災時（発災～1週間）

第1節 災害廃棄物処理体制の構築

発災直後、被災自治体では、被害状況の確認、仮設トイレ設置や災害廃棄物の収集・運搬・処理に必要な資機材確保、仮置場の開設や関係機関との連携等を行うための体制構築が急務であった。

〇〇〇では、この発災直後（発災から概ね1週間）において、以下のように災害廃棄物処理体制を構築した。

2.1.1 〇〇県

〇〇県では、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

表 2.1.1 発災から概ね1週間における災害廃棄物処理体制構築に関する対応

| 年月日 | 出来事 |
|--------------------------|-----|
| 平成28年4月14日 (発災・前震) | |
| 平成28年4月15日 (発災後1日) | |
| 平成28年4月16日 (発災後2日・本震) | |
| 平成28年4月17日 (発災後3日) | |
| 平成28年4月18日 (発災後4日) | |
| 平成28年4月19日 (発災後5日) | |
| 平成28年4月20日 (発災後6日) | |
| 平成28年4月21日 (発災後7日) | |

出典：

2.1.2 ○○市

○○市では、.....

表 2.1.2 発災から概ね1週間における災害廃棄物に関する各担当の役割と職員数

| 担当 | 役割 | 職員数 |
|----|----|-----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

備考：

出典：

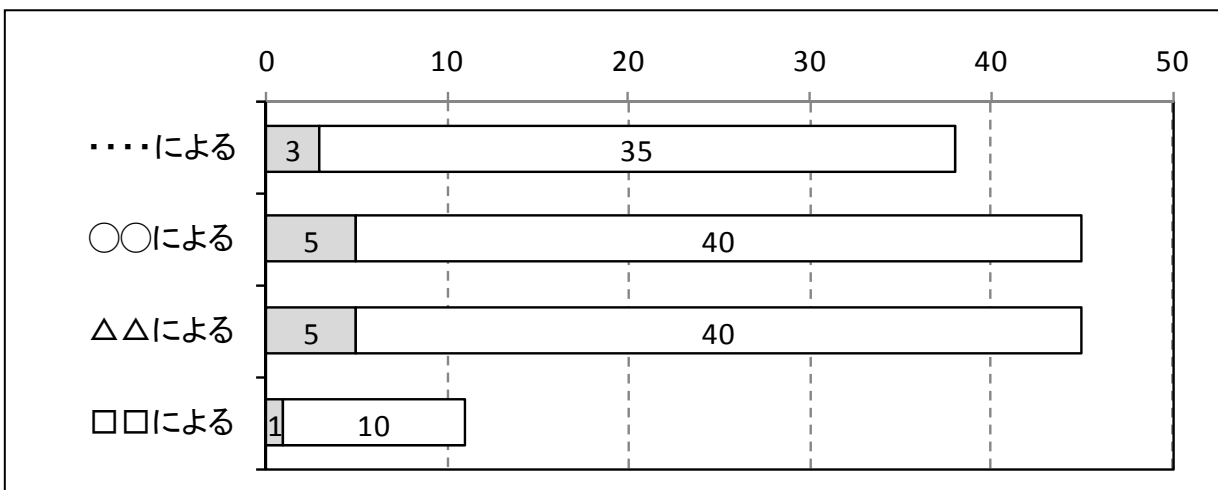
表 2.1.3 発災から概ね1週間における災害廃棄物処理体制構築に関する対応

| 年月日 | 出来事 |
|--------------------------|-----|
| 平成28年4月14日 (発災・前震) | |
| 平成28年4月15日 (発災後1日) | |
| 平成28年4月16日 (発災後2日・本震) | |
| 平成28年4月17日 (発災後3日) | |
| 平成28年4月18日 (発災後4日) | |
| 平成28年4月19日 (発災後5日) | |
| 平成28年4月20日 (発災後6日) | |
| 平成28年4月21日 (発災後7日) | |

出典：

ヒアリング調査結果の掲載例

| 理由 | 回答 | | | |
|----------------------------------|-----|--|------|--|
| | あった | | なかった | |
| | | | | |
| 担当課職員自身の被災による減員 | | | | |
| 他部署への応援による担当課職員の減員 | | | | |
| 出張等による担当課職員の減員（通行止め、渋滞等で現地入りできず） | | | | |
| その他の要因による減員 | | | | |



備考：

図 2.1.1 発災後の廃棄物関連部署職員の参集状況

写真の掲載例



写真-熊本県内の被害状況

出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/h28_shinsai/detail/?id=KM-00-01-032&rtp=search&p=7)



写真-熊本県内の被害状況

出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/h28_shinsai/detail/?id=KM-00-01-017&rtp=search&p=10)



写真-熊本県内一次仮置場

出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/h28_shinsai/detail/?id=KM-00-02-064&rtp=search&p=4)



写真-熊本県内一次仮置場

出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/h28_shinsai/detail/?id=KM-00-02-062&rtp=search&p=4)

【災害廃棄物処理体制構築に関する振り返り】

災害廃棄物が発生した熊本県内自治体及び大分県内自治体等へのヒアリング調査結果をもとに災害廃棄物処理体制構築について、得られた課題や教訓をまとめる。

1) 各自治体から得られた意見

災害廃棄物処理体制構築について、各自治体から得られた意見は以下のとおりである。

【よかったこと】

| 得られた意見 |
|-----------------------|
| ・ ・ ・ ・ ・ |

【課題・反省点】

| 得られた意見 |
|-----------------------|
| ・ ・ ・ ・ ・ |

【国・県・支援者等への要望事項】

| 得られた意見 |
|-----------------------|
| ・ ・ ・ ・ ・ |

2) 得られた意見のまとめ

【よかったこと】

各県及び市町村等では、災害廃棄物体制の構築について、以下の取組等が役立ったとしている。

- ・マニュアルを含む災害廃棄物処理計画の策定
- ・ノウハウを有する人的な支援
- ・過去の災害廃棄物処理の経験
- ・災害時協力協定の締結

【課題・反省点】

各県及び市町村等では、主な課題・反省点として、以下をあげている。

- ・災害廃棄物処理計画の未策定
- ・災害廃棄物対応職員の不足
- ・災害廃棄物処理に関するノウハウの不足
- ・災害廃棄物の広域処理体制の未整備
- ・情報伝達の支障

【課題・反省点に対する今後の対応について】

これらの課題・反省点に対する今後の対応として、例えば以下のような対応が望まれる。

- ・災害廃棄物の広域処理体制を構築する。
- ・災害廃棄物処理計画や対応マニュアルを策定しておく。
- ・災害廃棄物処理において不足すると予想される人材や資機材を事前に把握し、発災時に連携できるように周辺自治体や団体との協力体制を構築する。
- ・災害廃棄物処理に関する定期的な講習会・研修会等を行い、自治体職員の人材育成を図る。

【国・県・支援者等への要望事項】

- ・関連する意見はなかった。